

助役の会社が候補

05.12.6
朝日

市議会

公平性に疑問の声

指定制度
の管理者
姫路

公共施設の管理・運営を民間などに移す指定管理者制度で、姫路市の米田洋助役が委員長を務める選定委員会が、同市本町の市民プラザの指定管理者の候補として、米田助役が社長の第三セクター「イーグレひめじ管理会社」を選んでいたことがわかった。市側は「公平に判断した結果」とす

るが、5日の定例市議会でこの問題を取り上げた竹内英明市議（市民クラブ）は「制度としての公平性が担保できるのか」と指摘し、選定の経緯について市に情報公開を求めた。

市民プラザはイーグレひめじ地下1、2階のキヤラリーとアリーナからなり、現在は市が運営している。市行政システム改革本部によると、市民プラザの指定管理者公募には10の団体が応募した。選定は市教委が担当し、教育次長ら市職員、大学教授、公認会計士の計9人でつくる選定部会が審査して管理者候補を決めた。その後、市幹部らでつくる選定委員会が審議した

が、市民プラザの承認では、米田助役は「私は審議に加われない」と席を外したという。

行政システム改革本部は「助役が社長を務めていても、あくまで一業者とみて客観的に判断した。選定や審議にあたった職員が圧力を感じたり、配慮したりしたことはない」としている。

一方、竹内議員は「市幹部や議員など市政に強い影響を与える人間が選定に影響を与えたのではと疑われるような仕組みは良くない。制度として

の公平性を市民にきちんと示す必要がある」と話している。